



事務局

みずとみどり研究会気付(申込・問い合わせ)

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX:042-327-3169

E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL:http://www.japan-mizumap.org

2009年12月発行

身近な水環境の 全国一斉調査

●●笑顔でつなぐゆたかな水辺●●

第6回 調査結果概要

2009

目次

I 調査の背景	P.1
II 調査の実施手法	P.2
III 調査結果の概要	P.3
全国一斉調査諸データの推移	P.4
2009 全国水環境マップ 第6回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.5
2004 全国水環境マップ 第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.6
IV 各ブロックでの調査結果	P.7
北海道地方	P.7
東北地方	P.8
北陸地方	P.9
関東地方	P.10
中部地方	P.11
近畿地方	P.12
中国地方	P.13
四国地方	P.14
九州地方	P.15
沖縄地方	P.16
V 一斉調査結果の活用事例紹介	P.17~P.18
VI 調査のまとめと考察	P.19
VII 全国水環境マップ実行委員会名簿	P.20
VIII 身近な水環境を調べよう! 第7回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い	P.21
第7回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙	P.22

「身近な水環境の全国一斉調査」とは

毎年6月に統一調査日を設け、市民団体と河川管理者などの連携により、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を調査しているものです。

本誌は、その結果をマップとしてまとめ、参加者の皆様のご意見を記載しています。

本調査は財団法人河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



この印刷物は大豆インキを使用



I. 調査の背景

近年、河川や水辺など身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まっています。市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていません。このような多くの結果を有効に利用するためには統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。

多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉に調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。そのため全国で水質調査を実践している市民団体等が国土交通省及び財団法人河川環境管理財団と連携して、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、全国の水環境マップを作成することにしました。

「身近な水環境の全国一斉調査」により多くの河川などで水辺の様子や水質などの現状が把握できます。一斉調査は当日の天候にも影響されますが、さらに継続して実施することにより水環境の変化やその原因などが明らかになります。市民が自ら水質を調査し、水環境の実態を明らかにすることにより、その保全と修復に関する今後の活動へ発展することが期待されます。

「身近な水環境の一斉調査」は2004年6月に開始され、6年間の延べ人数で約46,000人の市民や学校の子どもたちが参加しました。今後もこの調査を継続することにより、水環境に対する市民の理解と関心がさらに高まり、多くの地点で調査が実施されることを期待しています。

目的と意義

- ① 身近な水環境を簡単な方法で自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
- ② 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
- ③ 身近な水環境の調査結果をすぐを知ることができる（行政による水質調査結果の公表はおよそ1年後である）。また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
- ④ 河川などの流域で、多くの人たちが調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
- ⑤ 同一条件で調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
- ⑥ 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
- ⑦ 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
- ⑧ 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
- ⑨ 調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
- ⑩ 子どもたちが調査に参加することにより、100年の眼で将来に活動を引き継ぐことができる。



II. 調査の実施手法

調査の概要

調査日：2009年6月7日(日)を中心に実施

調査者：『全国水環境マップ実行委員会(委員長:小倉紀雄 東京農工大学名誉教授)』のもと、
河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加

調査内容・方法：調査マニュアルに基づき、気温、水温のほか、簡易測定器材でCODを測定

調査項目

● 気温・水温・試水水温

一斉調査の調査票には、現地の気温・水温・試水水温と三種類の記入欄があります。現地の気温と水温を記入することで、同日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することが出来ます。また、簡易測定器材でCODを測定するためには試水水温が重要な要素であり、試水水温を測定することで簡易測定器材の反応時間を把握して、より正確な測定を実施することができます。

● COD(化学的酸素要求量)

水質汚濁の指標の一つとして用いられます。今回の調査は簡易測定器材を用いて、同一試料を三回測定し、それらの中央値を採用することでより正確な測定を実施することができます。

調査の手法

● 採水

- ① 雨天や増水などによる調査の中止も考慮し、これまでに調査を継続してきた地点や新たに調査してみたい地点を決定します。調査地点を調査票に記入します。
- ② より正確なデータ測定のため、水質の時間変化を考慮し採水時間は午前中に行ないます。
- ③ 試水を入れる容器は予め良く洗って乾かし、採水地点名・記号・採水日時を明記しておきます。採水器具や試水を入れる容器は、採水を行う川の水で十分に共洗います。
- ④ 浅く流れが穏やかな川では、川に入り川の中央で上流に向かって採水し、深い川や流れの速い川では、橋などの上からロープをつけたバケツを下ろし採水します。舞い上げられたゴミなどが混入しないよう十分注意して行います。
- ⑤ 調査月日・調査時刻・天気とともに、採水地点の気温と採水した試水の水温を測定し調査票に記入します。

● COD(D)値の測定

- ① 試水の水温を測定し反応時間を決定します。
- ② 添付の操作手順書に従い測定します。
- ③ 反応時間終了後ただちに標準色と比べ、測定値を調査票に記入します。
- ④ 同じ試水で3回測定します。
- ⑤ 指定の調査票に記入します。



III. 調査結果の概要

子どもたちが自分たちの住んでいる川について知るきっかけができました

全国各地の調査は、学校の授業の一環としても実施されました。

この調査をとおして、身近な川の名前やどんな生きものがいるのか、どこから流れてきているのか関心を持つきっかけになりました。

また、自分たちの地域でも独自のマップを作製する動きも活発になっています。

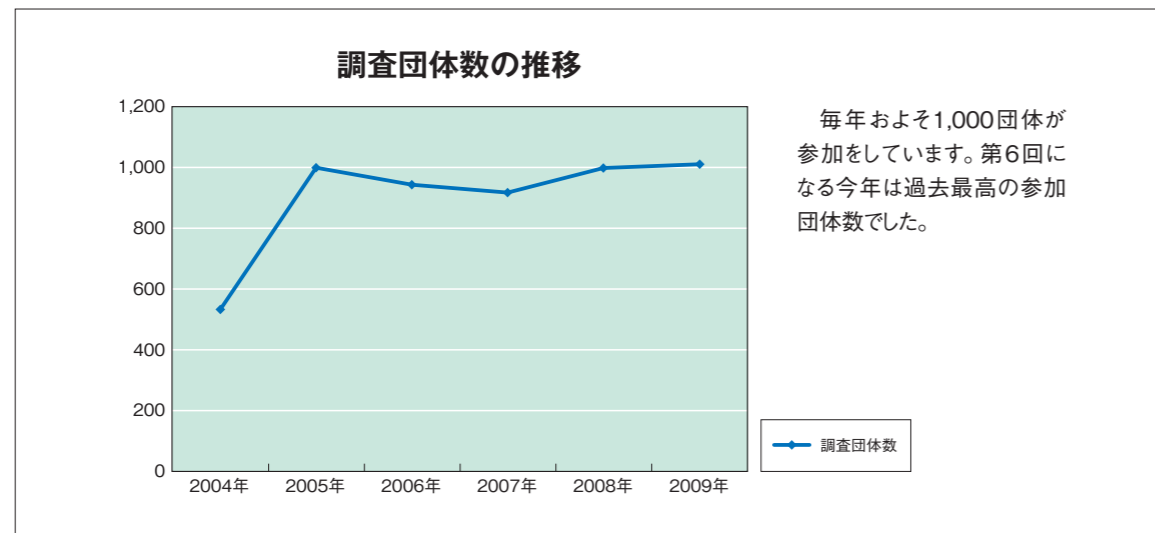
調査実施日・調査地点数

●全国統一日

調査日 2009年6月7日(日)
 参加団体数 569団体(個人参加含む)
 調査地点数 3,072地点

●調査総数(全国)

期 間 2009年5月15日～8月1日まで
 参加団体数 1,011団体 [参考:第1回 531団体、第2回 1,000団体、第3回 944団体、第4回 917団体、第5回 997団体]
 調査地点総数 5,683地点 [参考:第1回 2,545地点、第2回 5,018地点、第3回 4,923地点、第4回 5,473地点、第5回 6,241地点]



全国一斉調査諸データの推移

●年別 参加団体及び調査地点数集計結果

作成:全国水環境マップ実行委員会

都道府県番号	都道府県名	2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
		団体数	地点数	団体数	地点数	団体数	地点数	団体数	地点数	団体数	地点数	団体数	地点数
1	北海道	7	26	17	48	20	112	38	179	48	273	41	184
2	青森県	11	35	14	35	11	24	13	41	13	30	6	19
3	岩手県	8	24	21	35	12	30	13	36	9	41	12	24
4	宮城県	5	58	11	95	17	122	8	96	7	92	13	110
5	秋田県	2	5	9	27	9	30	10	44	16	50	6	42
6	山形県	105	271	112	275	80	211	28	55	60	162	21	50
7	福島県	1	3	4	4	2	3	11	38	12	46	6	38
8	茨城県	46	235	43	303	38	295	30	295	27	283	34	293
9	栃木県	2	4	2	4	9	27	12	41	6	25	6	16
10	群馬県	2	2	10	39	9	36	8	23	6	48	9	54
11	埼玉県	47	252	94	444	87	438	46	450	110	603	79	470
12	千葉県	4	16	13	40	40	114	17	98	16	97	17	82
13	東京都	87	373	116	546	112	521	120	543	113	640	111	648
14	神奈川県	19	72	29	193	39	220	41	256	23	236	28	230
15	新潟県	5	85	26	190	34	224	30	340	59	412	54	346
16	富山県	0	0	7	15	5	9	11	36	8	28	7	27
17	石川県	2	13	12	48	6	16	7	19	5	12	7	15
18	福井県	6	20	3	41	5	46	3	43	43	52	7	61
19	山梨県	49	213	70	250	41	161	36	160	36	147	42	163
20	長野県	4	11	19	68	8	64	10	53	14	97	26	130
21	岐阜県	5	23	9	29	9	31	9	36	16	55	18	71
22	静岡県	24	106	24	93	24	103	17	66	12	196	10	47
23	愛知県	22	66	35	142	31	115	27	70	38	89	54	164
24	三重県	2	55	11	79	13	82	11	101	8	97	16	121
25	滋賀県	4	114	54	473	63	605	86	739	87	773	114	709
26	京都府	4	40	7	55	9	49	7	54	6	101	21	108
27	大阪府	14	81	14	91	17	124	20	157	15	154	30	236
28	兵庫県	2	3	19	65	23	84	22	82	17	78	32	98
29	奈良県	2	7	13	26	7	46	6	31	9	31	23	56
30	和歌山県	0	0	5	20	2	6	5	13	9	27	7	14
31	鳥取県	3	8	4	11	2	4	4	6	4	10	3	4
32	島根県	1	2	3	6	4	12	1	2	2	10	5	20
33	岡山県	1	20	12	143	16	164	15	176	12	176	17	183
34	広島県	1	17	4	45	9	91	7	80	7	83	5	76
35	山口県	5	17	6	21	5	18	2	27	7	99	4	34
36	徳島県	8	74	16	72	12	29	24	147	23	95	13	54
37	香川県	1	2	3	9	5	12	8	18	5	17	6	19
38	愛媛県	7	60	39	519	13	166	14	219	11	285	11	209
39	高知県	8	33	29	96	34	99	60	197	21	52	26	68
40	福岡県	4	29	11	36	11	63	14	56	21	104	19	84
41	佐賀県	0	0	33	123	32	110	33	124	37	120	37	112
42	長崎県	0	0	7	16	9	15	5	10	4	10	5	12
43	熊本県	1	3	2	11	4	15	11	21	8	34	4	13
44	大分県	6	9	6	18	5	30	4	21	7	40	7	47
45	宮崎県	8	34	8	44	8	44	8	43	4	39	3	33
46	鹿児島県	0	0	12	41	15	70	14	77	9	59	10	55
47	沖縄県	2	4	13	34	12	33	11	54	6	33	7	34
	のべ数	547	2,545	1,031	5,018	978	4,923	937	5,473	997	6,241	1,039	5,683
	実団体数	531		1,000		944		917		997		1,011	

他府県に及んで調査している団体もあるため調査団体の合計は必ずしも一致いたしません。

●調査グループ記入票集計結果(人)

実施年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
参加者総数	4,000	8,377	8,464	8,151	8,737	8,204
小学生以下		3,739	3,289	2,919	2,498	2,216
中学生以上の学年		945	923	931	958	919
大人		3,565	3,827	4,516	4,955	4,697

調査グループ記入票の人数は参加者からの記入されているとおりにカウントしている為、参加者総数と各年代の合計と必ずしも一致いたしません。

●一斉調査日実施状況

実施年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
団体数	360団体	600団体	587団体	547団体	508団体	569団体
地点数	1,875地点	3,288地点	3,044地点	3,158地点	3,483地点	3,072地点

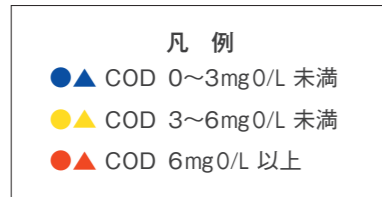
●海外データ

国名	2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		2009年	
	地点数	河川数	地点数	河川数	地点数	河川数	地点数	河川数	地点数	河川数	地点数	河川数
中国	8	5	63	—	3	—	2	1	—	—	—	—
韓国	4	1					3	2	—	—	—	—
チェコ共和国					1				—	—	—	—

詳細については、ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org>)にデータが掲載されています。

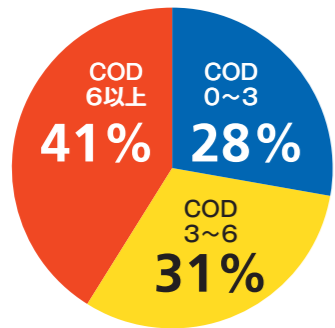
2009 全国水環境マップ

第6回 身近な水環境の全国一斉調査結果



○はバックテストによる測定
△はサンプルバックによる測定

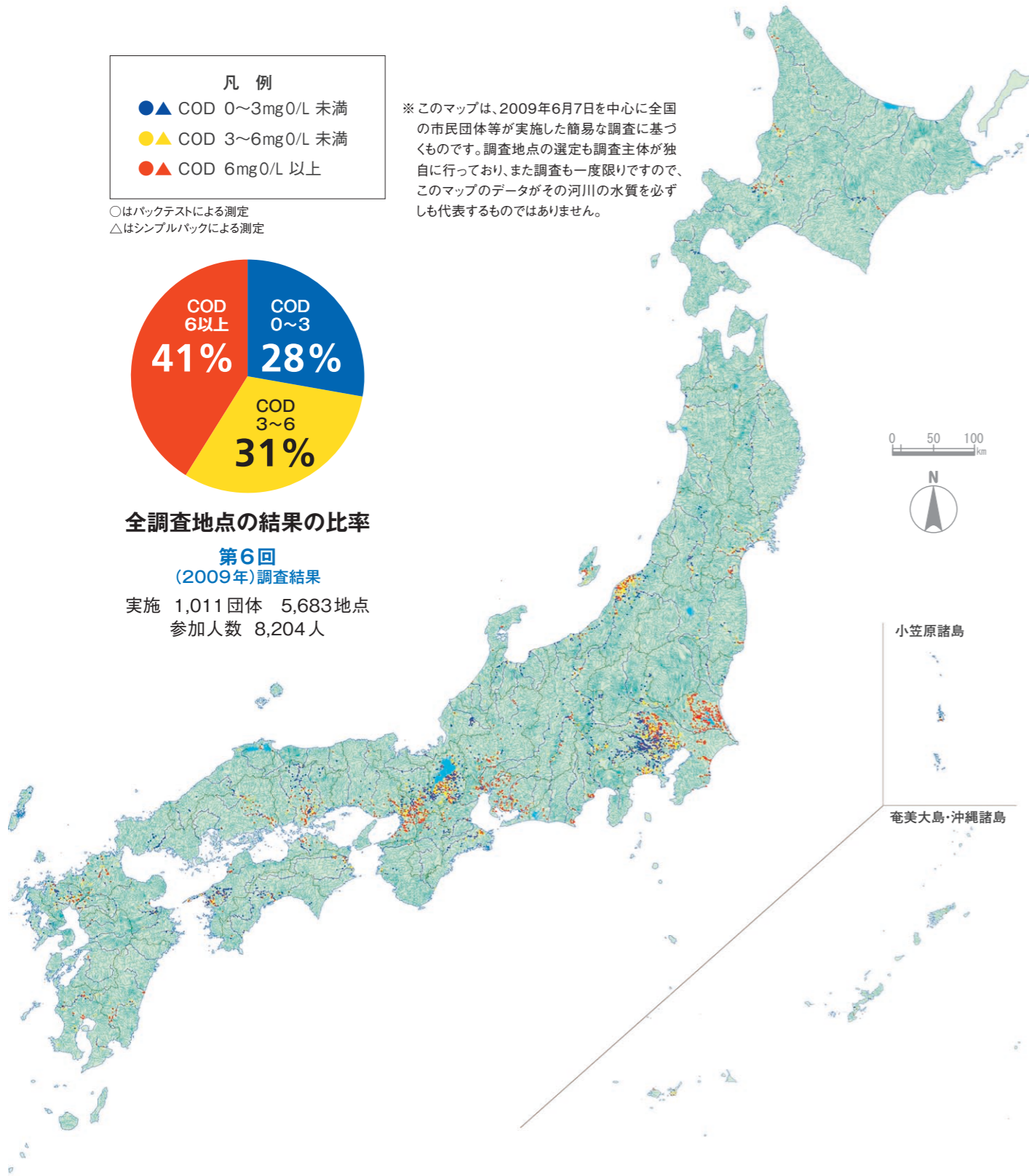
※このマップは、2009年6月7日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。



全調査地点の結果の比率

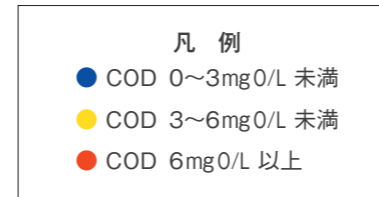
第6回
(2009年)調査結果

実施 1,011 団体 5,683 地点
参加人数 8,204 人

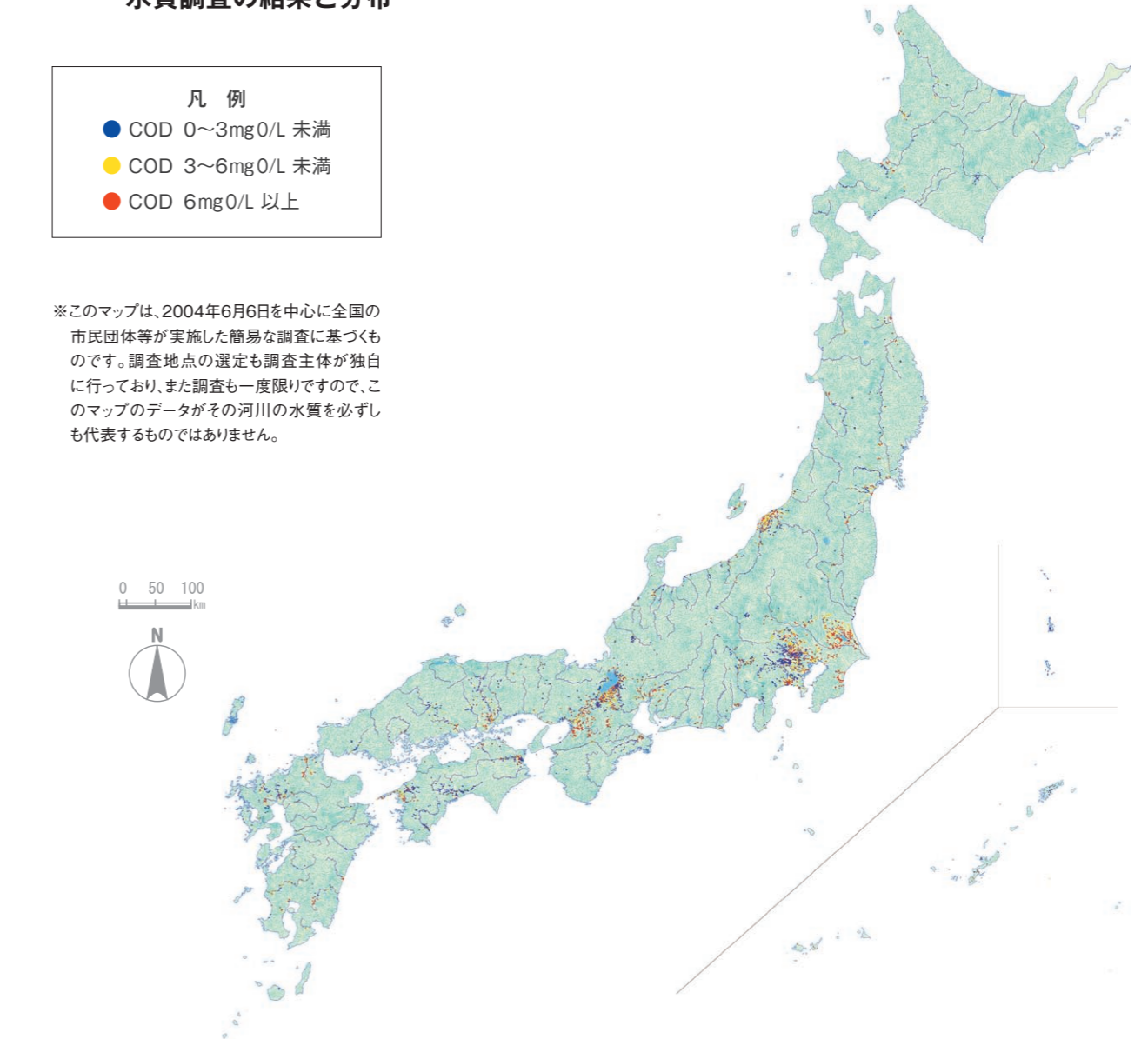


2004 全国水環境マップ

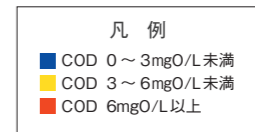
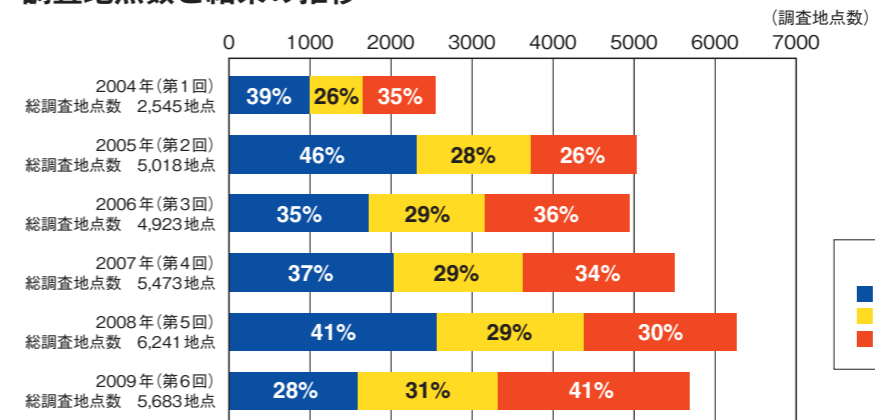
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果 水質調査の結果と分布



※このマップは、2004年6月6日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

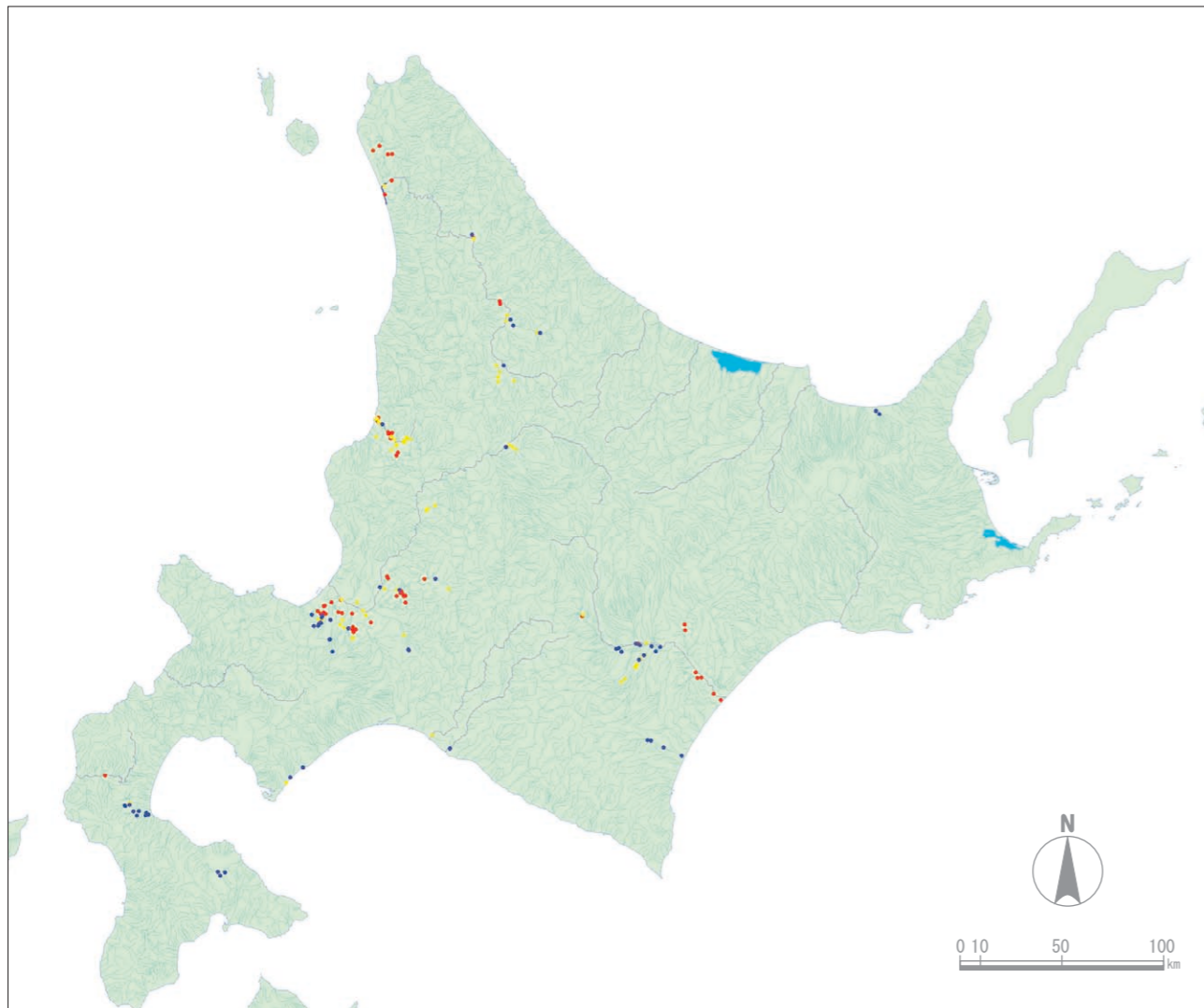


調査地点数と結果の推移



IV. 各ブロックでの調査結果

北海道地方

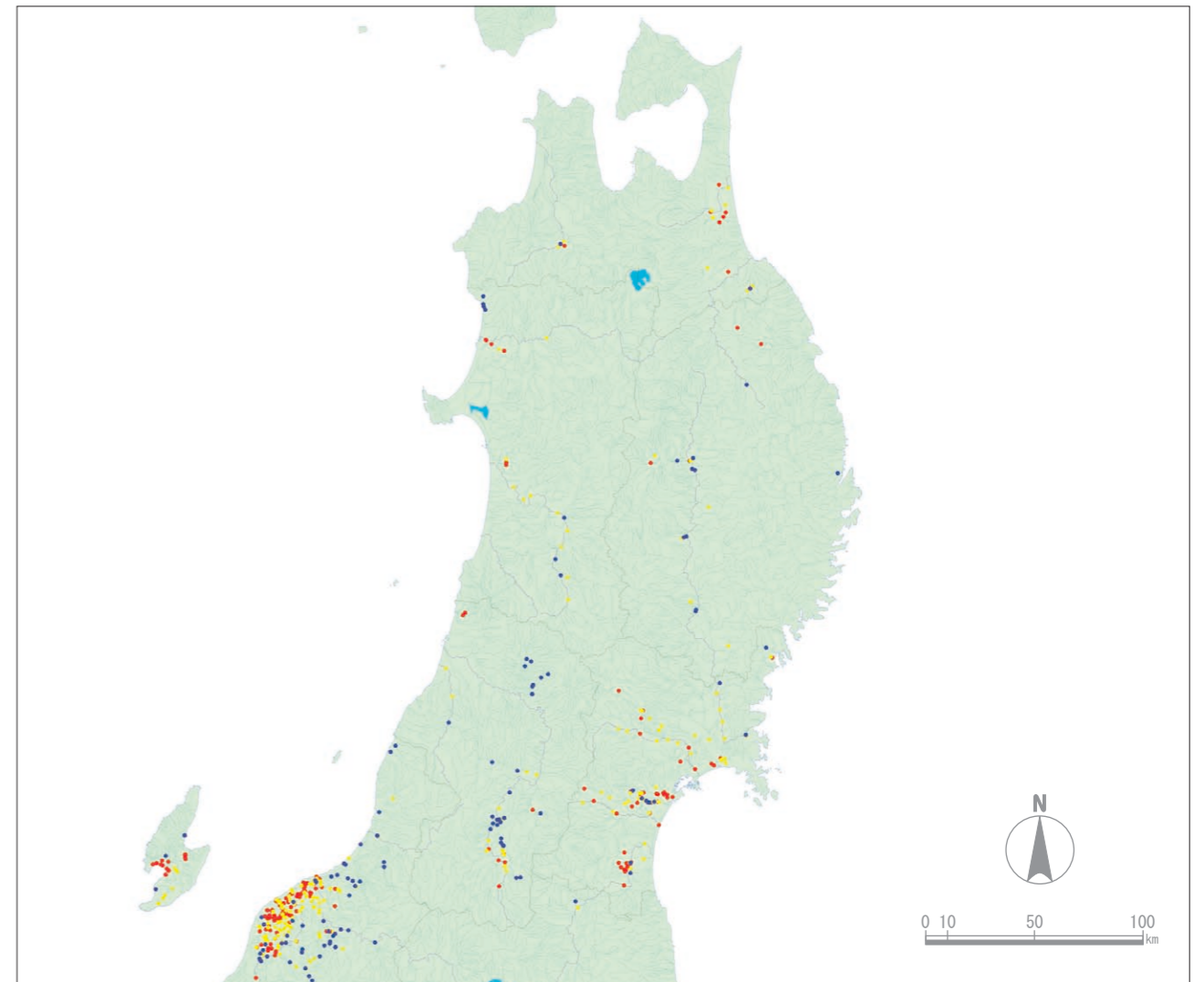


参加者からのコメント

- 地図を見ながら場所を確認し、「学校の横の川って、ここから流れてきているんだ」など、自分たちの住む町の自然環境に目を向けるよい機会となっています。



東北地方



参加者からのコメント

- きれいな水質にするためにはどのようなことをすればよいのでしょうか。地域の水環境をきれいになりたいですね。
- 毎年、結果がまとめられて届くので参考になります。

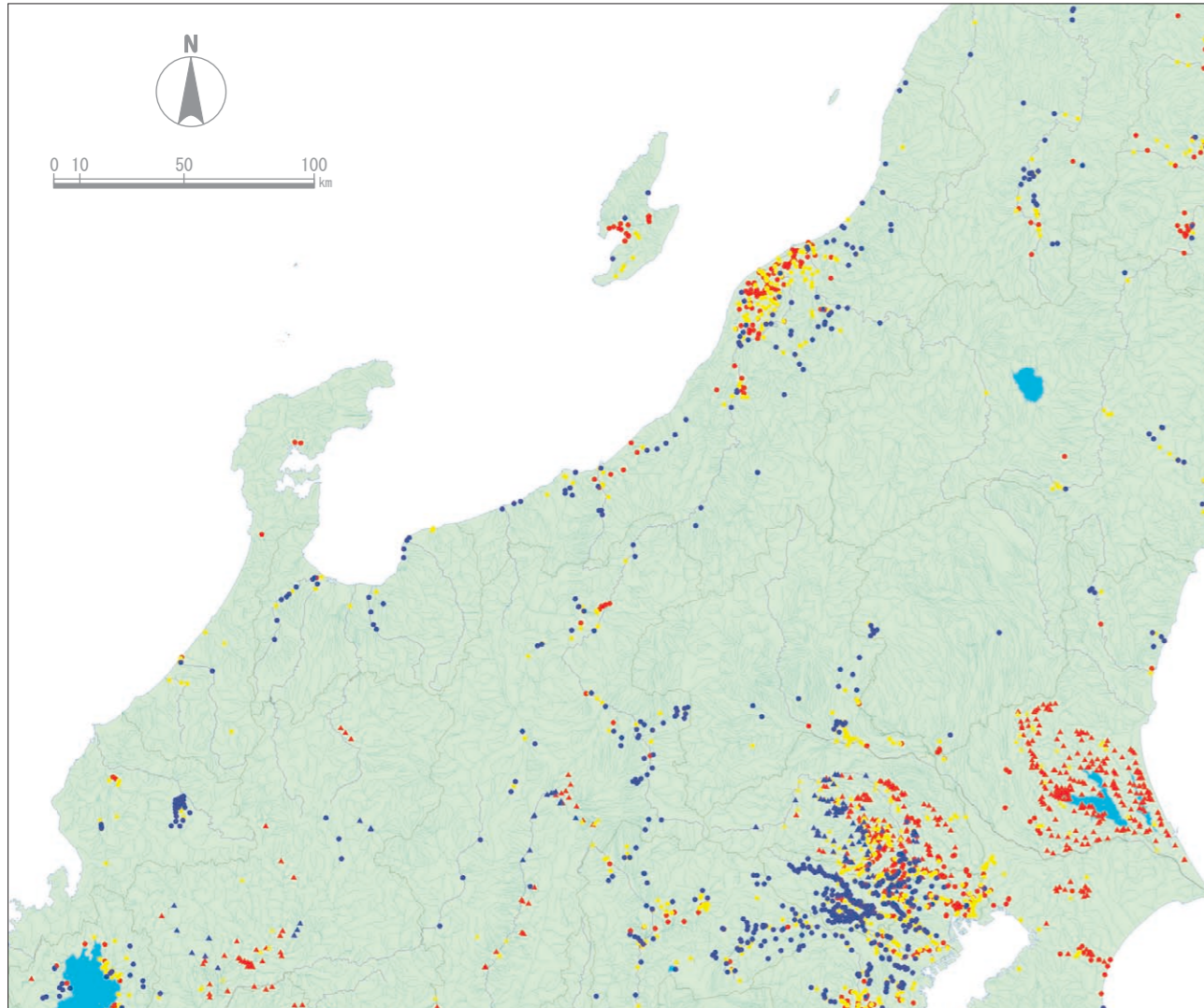


※このマップは、2009年6月7日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

凡例	
●▲	COD 0~3mgO/L 未満
●▲	COD 3~6mgO/L 未満
●▲	COD 6mgO/L 以上

○はバックテストによる測定
△はシンプルパックによる測定

北陸地方

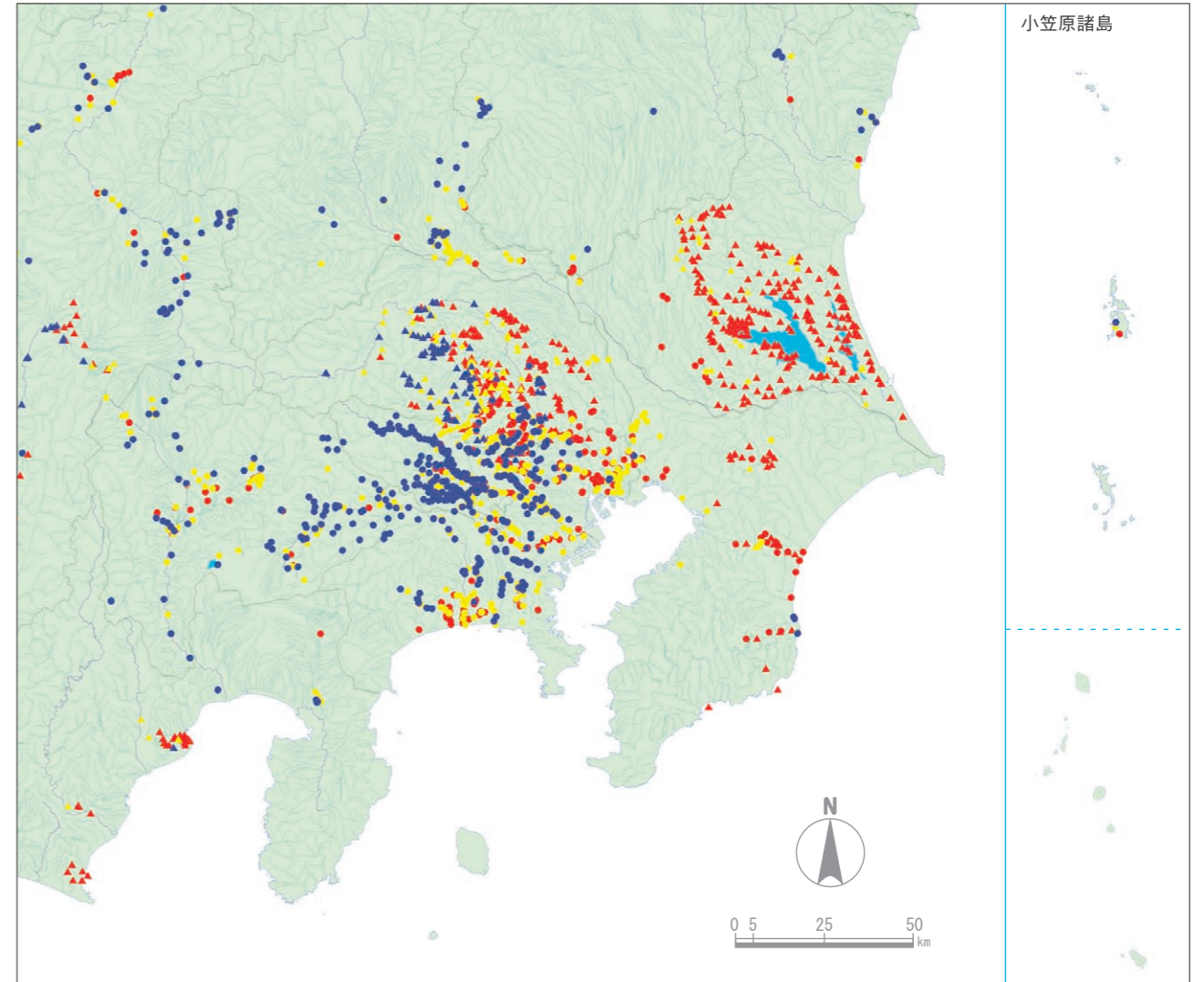


参加者からのコメント

- 今回は水辺の植物なども観察しました。気付かないことが多いと驚いています。今後も続けていきたいと思ひます。

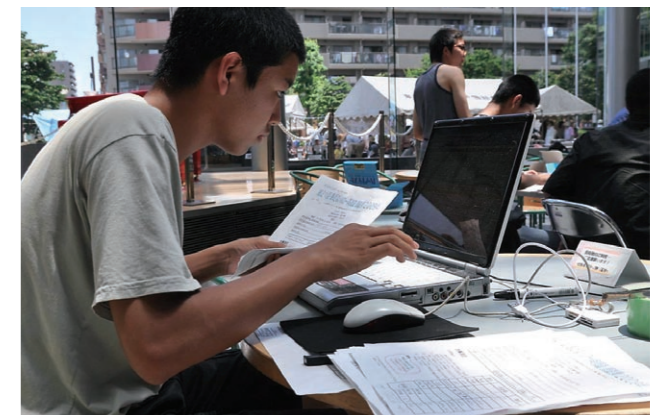


関東地方



参加者からのコメント

- 今回初めて参加させていただきました。みな興味を持ちつつ楽しく調査しました。次は湧水池点も1度調査して結果によっては年に2度ほど季節を選んでやろうと思ひます。
- 2回目の参加です。今年は水量が少なかったため昨年より水質が汚れているように思ひました。川で遊ぶ子供をみません。きれいな自然を守り残してやりたいです。

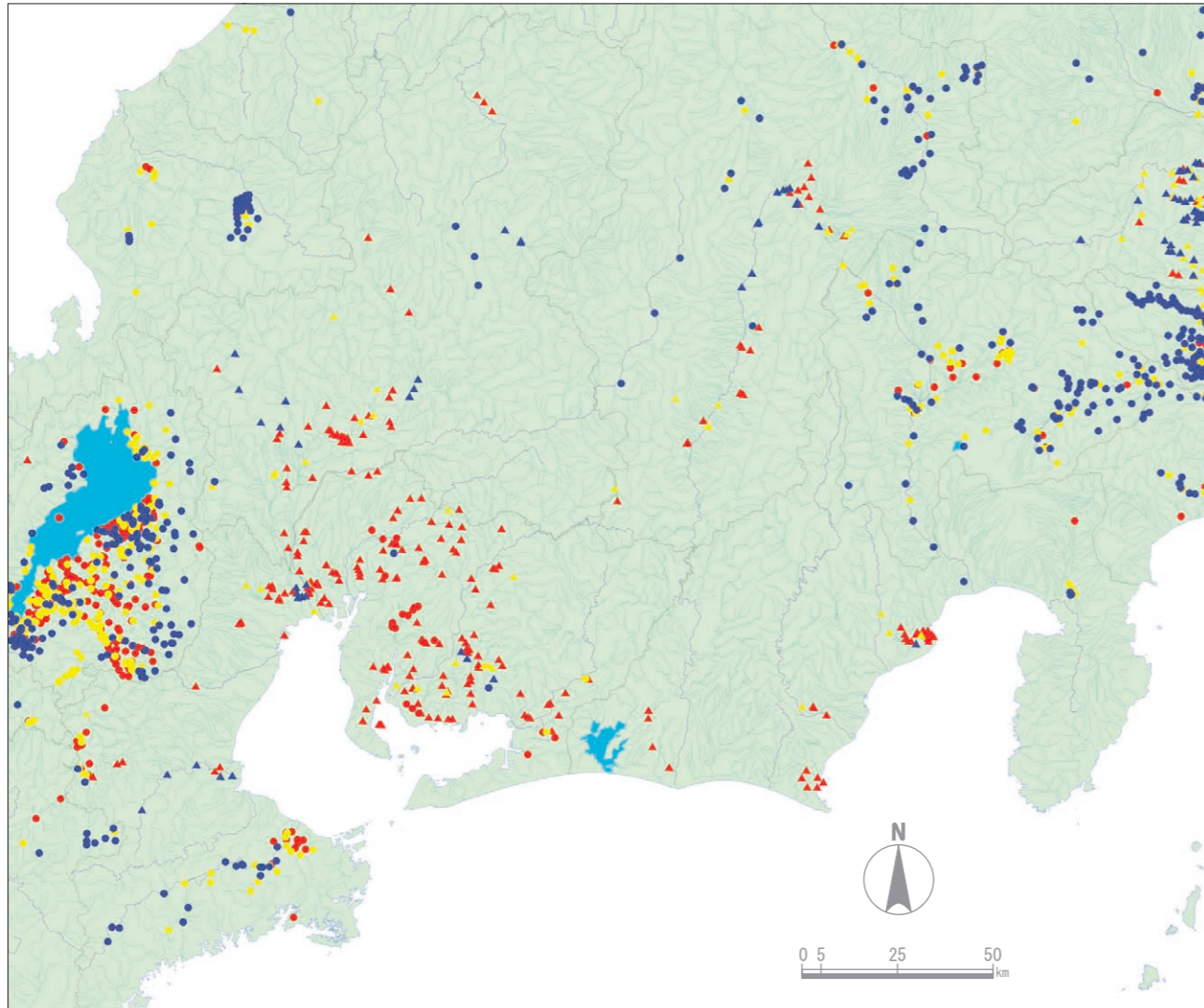


※このマップは、2009年6月7日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

- 凡例
- ▲ COD 0~3mg/L 未満
 - ▲ COD 3~6mg/L 未満
 - ▲ COD 6mg/L 以上

○はバックテストによる測定
△はシンプルバックによる測定

中部地方

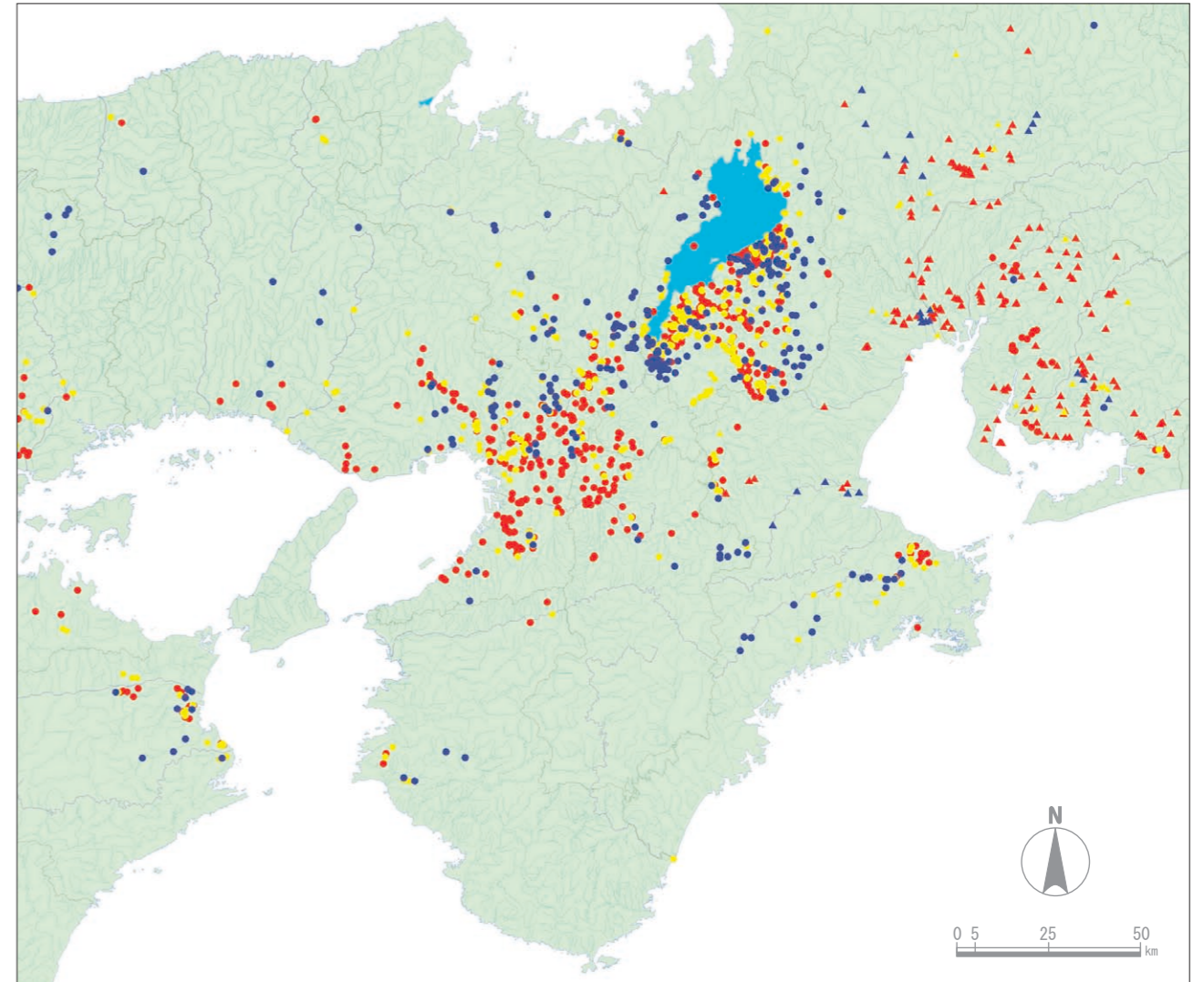


参加者からのコメント

- 以前より水質調査を授業に取り入れたいと考えていました。絶好の機会を与えていただき感謝しています。今後も毎年続けていけたらと願います。もし、さらに調査や機会がありましたら教えてください。
- 川の汚れを観てきて以来、何から始めてよいか課題が多すぎでしたが、人々に訴えるにはまず、記録に残しておこうと考えました。これを続けていこうと思います。地域の人たちに働きかけていきたいです。



近畿地方



参加者からのコメント

- 何気なく見ていた水辺でしたが調査をすることになり、水辺の見方が変わった。
- 日本の自然を次世代へよりよい状態で引き継ぐため、このような調査は継続的に計画実施されるよう希望します。メンバーも10年はしないと、言っています。

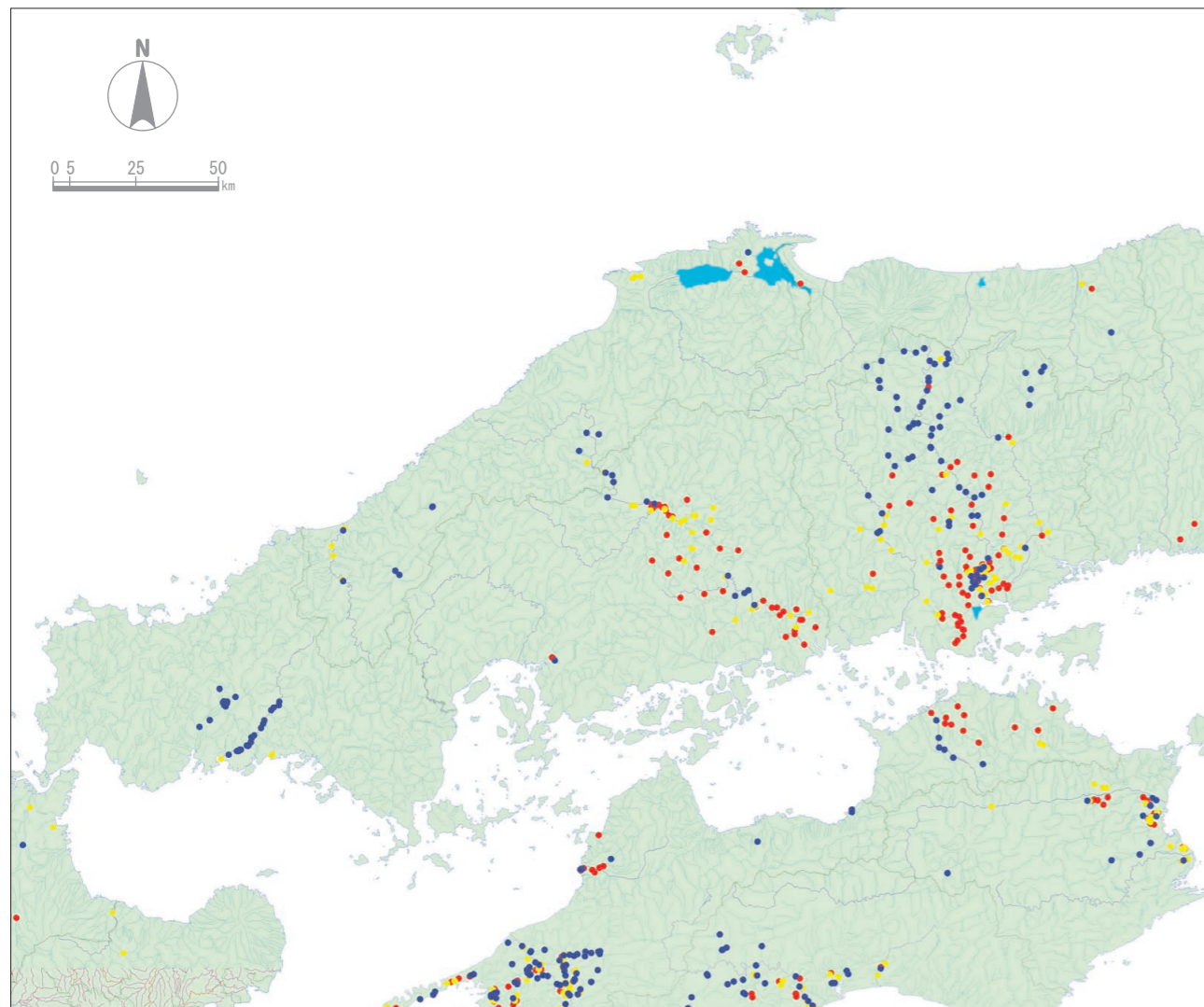


※このマップは、2009年6月7日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

凡例	
●▲	COD 0~3mg/L 未満
●▲	COD 3~6mg/L 未満
●▲	COD 6mg/L 以上

○はバックテストによる測定
△はシンプルパックによる測定

中国地方

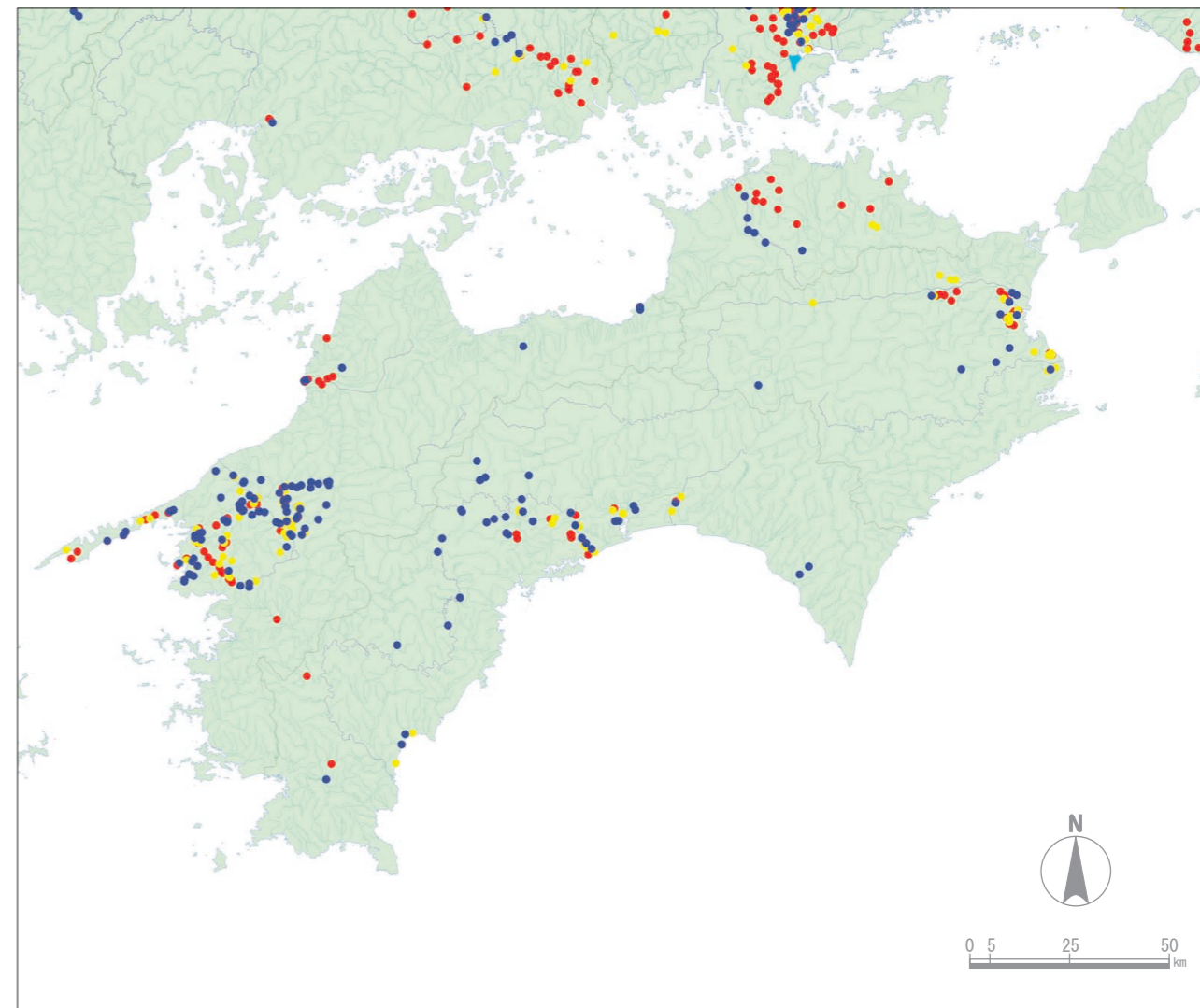


参加者からのコメント

●今回は初参加でもあり、事務局が単身で体験しました。次回は会として取り組めると思います。



四国地方



参加者からのコメント

●身近な川の美しさに関心を持ち、環境への取り組みのきっかけとなりました。CODの反応色を一生懸命見守る子どもたちは真剣そのものでした。
●川は自然がいっぱいで魅力的な場所です。川や水辺のゴミは水質悪化や生き物への影響、さらには海に流れ自然環境に大きな影響を与えますので調査後にはゴミを持ち帰る努力をしています。



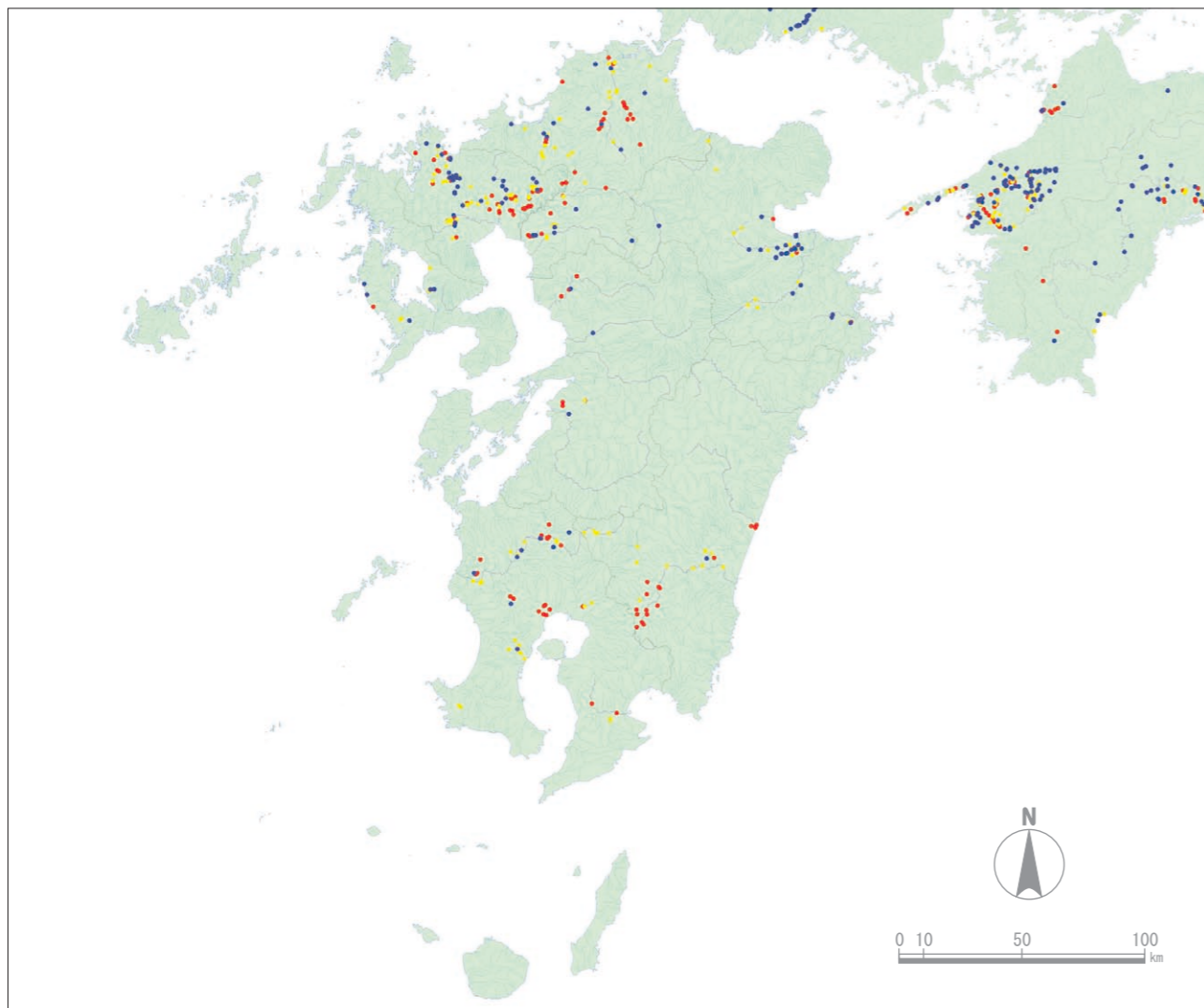
凡例

- ▲ COD 0~3mg/L 未満
- ▲ COD 3~6mg/L 未満
- ▲ COD 6mg/L 以上

○はバックテストによる測定
△はシンプルパックによる測定

※このマップは、2009年6月7日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

九州地方



参加者からのコメント

●中高生のメンバーがちょうど退会時期と重なり、また、小学生のメンバーが運動会であつたりと実施が難しくなりましたが、たとえ少人数でも手際よくできるので今後も続けていきたいと思ひます。



沖縄地方



参加者からのコメント

●継続して観察して見えてくるものがあります。子どもたちの感想はつたないものですが、それでも今後も続けていきたいです。



凡例

- ▲ COD 0~3mg/L 未満
- ▲ COD 3~6mg/L 未満
- ▲ COD 6mg/L 以上

○はバックテストによる測定
△はシンプルパックによる測定

※このマップは、2009年6月7日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づいたものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

V. 一斉調査結果の活用事例紹介

本調査を中心に全国各地で独自にまとめたマップや報告書、ホームページ等の取りまとめ結果が事務局に多数寄せられています。特にマップについては各地、各流域で独自のまとめ方をしており、特徴的なものが数多くありました。それらの事例を紹介いたしますので、参加した皆さんの今後の活動に役立てていただきたいと思います。

活用事例 1 「山国川を調べてみよう」 NPO 法人水辺に遊ぶ会・山国川生きもの楽会

大分県と福岡県の県境を流れる急峻な山国川と、その流れが育んだ中津干潟。この豊かな水環境をたくさんの人に知ってもらい、保全することを目的に私たちは活動しています。

身近な水環境の全国一斉調査には4回目の参加です。場所は山国川の下流域、平成大堰近くの、日頃観察会や生きもの調査を行っているフィールドです。毎回、バックテストによる水の調査と一緒に、身近にあるいろいろな水と山国川の水を色やにおいで比べてみたり、水生生物の観察、川に流れ着くごみの調査とごみ拾いも行っています。日頃の生活の中で、川に接する機会の少ない子どもたちに、川や身近な水環境について知ってもらい、考えてもらう機会になると良いなと思っています。

今年は年齢が低い子どもたちの参加が多かったこともあり、水の調査はちょっとむずかしかったようですが、川の中に入っての生きものさがしはみんなとても楽しそうで、まだ水が冷たいのに泳ぎ出す子どもが続出。小さな河童ちゃん達の歓声でにぎやかな川辺でした。今後も地域のみなさんと、身近な水環境を見つめる活動を続けていきたいと思っています。



活用事例 2 新河岸川水系水環境連絡会 流域コミュニケーションマップ URL <http://www.strata.jp/yanase/>

関東平野を流れる延長174kmの荒川水系の東京都と埼玉県の境にある新河岸川の水系(下図)において、過去14年間、水質調査や生きもの調査を流域内の学校や市民団体50余りと共同で実施してきました。この全国一斉調査には第一回から参加していて、毎年A1サイズの流域マップを作って参加者や一般の方に知ってもらうために配布してきましたが、近年、インターネット上で活用できるようにweb-GISのシステムづくりを進めてきました。



新河岸川流域コミュニケーションマップ

新河岸川流域コミュニケーションマップにあなただも参加してみませんか?

新河岸川流域コミュニケーションマップとは、新河岸川流域の川の状況、水質、湧き水、緑などの水循環に関するデータや情報、生き物や流域の魅力資源などの情報を、流域の市民が自ら集め、インターネットの地図上に登録・蓄積・発信するものです。

【参加方法】
 ①参加者の氏名、連絡先(メールアドレス)を事務局アドレス(yanase@cknet.co.jp)にメールしてください。
 ②事務局よりIDとパスワードをメールで送付します。
 ③「新河岸川流域コミュニケーションマップ」ホームページ(<http://www.strata.jp/yanase/>)よりログインし、お持ちの情報を入力してください。

問合せ先：新河岸川流域水循環市民プロジェクト研究会 事務局 大堀功寿
 TEL:03-3208-9913 FAX:03-3208-3572
 E-mail:ohori@cknet.co.jp

湧き水情報募集中！身近な湧き水の魅力紹介、観察情報、写真などを募集しています。情報を集めて、新河岸川流域の湧き水マップをつくりましょう！

まだ試行の段階ですが、今後は全国展開も視野に入れ水質調査の結果だけではなく、生きものや、地域の食べ物の情報なども盛りだくさんの要素で多くの方に活用いただけるマップを目指しています。ご興味のある方は、ぜひご覧いただきたいと思っています。



新河岸川水系にある河川の写真集「みずとみどり 東久留米」より

VI. 調査のまとめと考察

今回の全国一斉調査では、新型インフルエンザや降雨による影響があったにもかかわらず、過去最大の参加団体数となり、昨年度に引き続き幅広く多くの方々に参加していただきました。

今回、一部の地域において昨年と異なる簡易測定器材で測定したため、昨年に比べ変化が見られたように感じる地域もありますが、概ね大きな変化は見られませんでした。今回の調査結果を地域において、活用していただきたいと思えます。

今回の調査で申込み時の調査地点数に対し、実施地点数の少ない団体が目立ちました。新型インフルエンザの流行や異常気象により中止や規模の縮小などもありましたが、調査時の移動など実際は予想以上に調査時間がかかり実施できない事例もありました。参加される方々には、無理のない予定を立てて安全に実施していただくようお願いいたします。

簡易測定器材について

第1回から第5回までの全国一斉調査は、より多くの子どもたちを含めた市民の皆さんに参加してもらうことと併せて、調査データについても十分な測定精度を得ることを目指し、同一の簡易測定器材を使用してきました。

しかし、第6回となる今回は、関東の一部の地域と中部地方(長野県の一部、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)(1,036地点)とその他の地域(4,647地点)では、簡易測定器材を手配する都合により別々の簡易測定器材を使用することとなりました。

本調査は、統一日に統一の手法で行うことで全国マップに調査結果をまとめ、流域内の上下流や他の流域との比較が容易になるという特色で進めてきました。今後も全国一斉調査の基本理念は変わりませんが、器材購入や本調査運営にあたり参加者のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今年の結果をまとめるにあたり、異なる器材で測定したCOD結果を、同一のマップに表現するためにCODの3段階評価は従来どおりですが、使用した器材の違いをマップ上で○または△の表記として区別しました。

第6回調査の考察

第6回調査は、第5回までの統一器材として使用していた「バックテスト^{※1}」と「シンプルバック^{※2}」の2種類の簡易測定器材を使用しました。

※1 バックテストは、株式会社共立理化学研究所の登録商標です。

※2 シンプルバックは、柴田科学株式会社製です。

昨年の12月に開催されました「全国水環境マップ実行委員会」においても、簡易測定器材の手配方式の変更から今回のような状況が予測され、さまざまな問題や課題が議論されております。

実行委員会は、今回もちいられた2種類の簡易測定器材の測定値の相関精度や新しい簡易測定器材への操作性等を、調査実績や経験の豊富な参加団体に依頼して、76地点でバックテストとシンプルバックの両方の簡易測定器材で同一の試水で比較調査をしました。

この結果については、下表のとおりになりますが、シンプルバックの方が平均して2mgO/L程度値が高くなっております。

(mgO/L)			
	最大値	最小値	平均値
シンプルバック-バックテストの差	14	-2	2.01

今後、調査の継続を考えると、それぞれの簡易測定器材と公定法も含めた同時測定を実施するなどにより、それぞれの測定精度の確認や測定マニュアルの作成等が必要と考えられます。

VII. 全国水環境マップ実行委員会名簿

(2009年10月1日 現在)

全国一斉調査や水辺の活動について何かございましたら、事務局または各地の水環境マップ実行委員にお問い合わせください。

実行委員

氏名	団体名	都道府県	TEL	E-mail
----	-----	------	-----	--------

●実行委員長

小倉 紀雄	みずとみどり研究会	東京都	042-327-3169	mizutomidoriken@ybb.ne.jp
-------	-----------	-----	--------------	---------------------------

●実行委員

野村 直也	NPO法人十勝多自然ネット	北海道	0155-22-7511	nomura_n@arc-corporation.co.jp
川下 雅弘	NPO法人天塩川リバーネット21	北海道	01654-9-6711	revernet21@ace.ocn.ne.jp
金子 博	NPO法人パートナーシップオフィス	山形県	0234-26-2381	npo-po@nifty.com
沼澤 篤	社団法人霞ヶ浦市民協会	茨城県	029-835-2252	kca@cg.mbn.or.jp
大熊 勝	NPO法人荒川流域ネットワーク	埼玉県	048-449-0055	ohkuma@clean-tec.jp
大野 和広	新河岸川水系水環境連絡会	埼玉県	048-466-0916	y.fujii@guitar.ocn.ne.jp
倉 宗司	身近な川の一斉調査実行委員会	東京都	042-562-8863	sakkoganeikura@yahoo.co.jp
石田 幸彦	浅川流域市民フォーラム	東京都	042-621-1779	CBB00853@nifty.com
佐藤 正兵	NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	03-3654-7240	renraku@cleanaid.jp
加藤 功	NPO法人新潟水辺の会	新潟県	025-230-3910	ecoline@mvd.biglobe.ne.jp
風間ふたば	Yamanashiみずネット	山梨県	055-220-8193	kagerou@ymizunet.org
沖野外輝夫	諏訪湖クラブ	長野県	0266-58-0490	okinow@po2.lcv.ne.jp
北田 俊夫	NPO法人びわこ豊穡の郷	滋賀県	077-583-8686	houjyou@lake-biwa.net
山崎 久勝	NPO法人蒲生野考現倶楽部	滋賀県	090-7240-4675	
今井 崇	財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構	大阪府	06-6920-3035	hozenkiko@byq.or.jp
池田 満之	旭川流域ネットワーク	岡山県		okakawa2@yahoo.co.jp
生野 宣宏	NPO法人仁淀川お宝探偵団	高知県	088-892-5050	ngckk745@ybb.ne.jp
大西 正國	NPO法人大淀川流域ネットワーク	宮崎県	0985-20-2377	ooyodogawa@ace.ocn.ne.jp
小野 朋典	リュウキュウアユを蘇生させる会	沖縄県	090-1361-1847	jim@ryukyu-ayu.com

事務局

氏名
高橋 克彦
菅谷 輝美
本間 君枝
佐山 公一

オブザーバー

氏名
小堀 洋美
空閑 健
梁瀬 達也
吉野 英夫
上成 純
岡内 完治
伊藤 史朗
今田 陽子
星野 順子



全国水環境マップ実行委員会風景

VIII. 身近な水環境を調べよう!

第7回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い

小倉 紀雄 全国水環境マップ実行委員会 実行委員長

●日頃、親しんでいる身近な水環境は簡単な方法で調べることができます。

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと河川管理者などと連携し、実施しています。本調査は、統一した調査マニュアルと簡単なキット(無償で配布)を用い、全国で一斉に行います。

調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(URL <http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

日 時	2010年6月6日(日) 世界環境デー(環境の日)に近い日曜日
測定項目	気温、水温、COD、その他
測定方法	調査マニュアル、調査キットに基づき測定(※1)
参加申込と締め切り	専用ホームページダウンロードまたはP.22の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、2010年3月10日(火)までに必ずご送付下さい。なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

事務局からのお願い

申込後、お手元に水質調査キット類が届きましたら、必ず内容をご確認ください。

※1 調査キットは、参加申込者に2010年5月頃に配布予定です。

—— もう一度見直そう! 市民による環境調査について ——

本調査の実行委員長であり、市民環境科学の提唱者でもある小倉紀雄・東京農工大名誉教授は、この調査の意義を、「市民が身近な水環境を自ら調べ、得られた結果を整理し実態を明らかにする。それらの活動を通し、身近な環境から地球規模の環境まで広く考え、問題解決のための実践活動に結びつけること」と定義付けています。

市民環境科学の意義は、次のようなことです。

- (1) 身近な環境を自ら調べ、その実態を認識すること。
- (2) 環境を監視(モニタリング)すること。
- (3) 新しい発見につなげること。
- (4) 地域の環境から地球規模の環境を考え、よりよい環境とかけがえのない地球を守る意識を持つこと。
- (5) 環境問題を広く考え、その解決のための実践に結びつけること。

本調査は、市民の手によるモニタリング調査で、簡易測定器材によるものであってもマニュアルに沿った手法で精度を管理し、継続的に調査をすることで調査地点や時期の限られている行政データを十分に補完できるものです。

これまで6回の全国調査は公民の連携パートナーシップですすめられてきました。今後も100年の眼で私たちの力で身近な水環境の調査活動を展開していきましょう。

参考文献:市民環境科学への招待 裳華房(2003)

申込・お問合せ先事務局

○事務局 **みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)**
〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202
TEL/FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp
URL <http://www.japan-mizumap.org>

全国一斉調査 お申し込み先
FAX:042-327-3169 E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp

第7回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

参加申し込み用紙はホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)からもダウンロードできます。申し込み締め切り日は2010年3月10日です。締め切り日までにE-mailまたはFAXで必ずお申し込み下さい。なお、期日を過ぎてのお申し込みの場合は必ず事務局にご相談下さい。

■ これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか

過去の参加あり 初めて

■ 参加グループ名

以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なる経年データとして結果が反映されません。

参加グループ名(個人参加の場合は参加者氏名、ただし個人情報保護の関係で個人名の公表は致しません)

変更前のグループ名

■ 参加グループの連絡責任者

(個人参加の場合はご記入の必要はありません)

■ 連絡先

(グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など)住所、電話、FAX、E-mail(特にE-mailアドレスははっきりとお書き下さい。携帯電話のE-mailは不可)

住 所:〒

電 話

FAX

E-mail

■ 調査予定地点名

河川名など 例)○○県 ○○川、××用水路、△△池。

■ 河川以外の水路・水辺等で調査を実施しますか

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。「はい」とお答えの方は別添「河川以外の調査了解調査票」にご記入の上、事務局に申し込み用紙と一緒にご提出ください。(専用HP上の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。)

はい いいえ

■ 調査予定日

ただし、結果の返送締め切り日(6月末日)より前に実施してください。

6月6日に実施する 6月6日に実施できない【その場合の予定 月 日】

■ 調査予定地点数

水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください。

地 点 (水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください)

■ 今後の連絡手段

今後のご連絡についてはEメールを中心に行わせていただきます。Eメールをお使いでない方は、ご希望の連絡手段を、以下にチェックして下さい。

FAX 郵便物など 電 話

■ 参加申し込みの確認はホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)でできます。

※調査の風景などの写真送付にご協力ください。お送りいただいた写真はパンフレットやホームページに使用させていただきます。